

I 調査の実施状況

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査実施日 令和6年4月18日(木)

(3) 受検者数・受検校数・実施教科等

※ 数値は、調査日に実施した公立学校数及び公立学校児童生徒数(義務教育学校を含む。)

	県受検者数(受検校数)	全国受検者数(受検校数)	実施教科等
小学校第6学年	14,985人(360校)	947,579人(18,495校)	国語・算数・質問調査
中学校第3学年	14,228人(155校)	875,952人(9,322校)	国語・数学・質問調査

※ 政令指定都市である岡山市は、義務教育の実施について、財源や人事、組織に関する権限を有し、それに基づいて、岡山市の実態を踏まえた目標や指標を設定し、独自の教育施策を推進しています。
ここでは、県民の皆様に、岡山県全体の教育の状況をお知らせするため、岡山市における結果も含んだ数値を公表しています。

2 学力調査の結果

県全体

【小学校 平均正答率 [%]】

※1 全国の合計の小数第1位を四捨五入した値と県の合計との差を算出

		国語	算数	合計	差 ※1
R6	岡山県	68	62	130	-1
	全国	67.7	63.4	131.1	

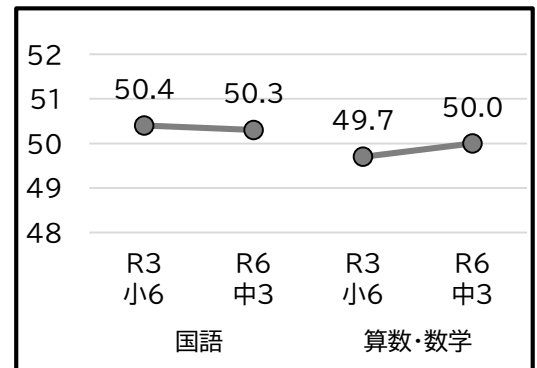
【中学校 平均正答率 [%]】

		国語	数学	合計	差 ※1
R6	岡山県	59	53	112	+1
	全国	58.1	52.5	110.6	

同一集団

標準スコアの推移 ※2

※2 標準スコアとは、全国の平均正答率を50としたときの換算値



○小学校の国語及び中学校の国語・数学の平均正答率は、全国より高い。

▲小学校の算数の平均正答率は、全国より低い。

3 学習状況調査(児童生徒質問紙)の結果

※ 各質問項目は、質問紙調査の質問文をそのまま用いている。

※ 肯定的回答割合は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合を示す。

(1) 夢育

① 将来の夢や目標を持っている(夢・目標)

《「当てはまる」と回答した割合[単位:%]》

		小6	中3
R6	岡山県	60.4	37.5
	全国	60.6	36.1

○中学校の「当てはまる」と回答割合は、全国より高い。

▲小学校の「当てはまる」と回答割合は、全国より低い。

(2) 授業理解・学習習慣

- ② 国語の授業の内容はよく分かる（理解度 国語）
 ③ 算数（数学）の授業の内容はよく分かる（理解度 算数・数学）
 ④ 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習1h以上）

《②・③肯定的回答割合、④1時間以上と回答した割合〔単位：％〕》

		小6			中3		
		理解度 国語	理解度 算数	学習 1h以上	理解度 国語	理解度 数学	学習 1h以上
R 6	岡山県	86.1	81.3	59.2	83.0	75.8	58.5
	全国	86.3	82.1	54.6	82.7	75.7	64.3

○小学校の「学習1h以上」の回答割合と中学校の国語・数学の「理解度」の肯定的回答割合は、全国より高い。

▲小学校の国語・算数の「理解度」の肯定的回答割合と中学校の「学習1h以上」の回答割合は、全国より低い。

(3) 学びに向かう力

- ⑤ 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる（自己調整力）

		小6	中3
R 6	岡山県	80.4	77.6
	全国	80.8	77.9

《肯定的回答割合〔単位：％〕》

【参考調査項目】

小学校（20）・中学校（20）

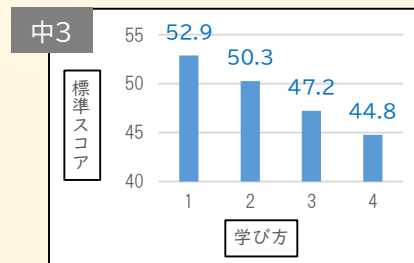
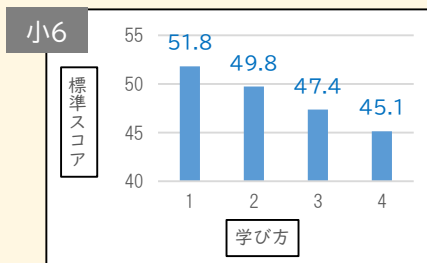
分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。（学び方）

《肯定的回答割合〔単位：％〕》

		小6	中3
R 6	岡山県	79.1	77.8
	全国	80.7	78.6

「学び方」と「標準スコア」のクロス分析

※「標準スコア」の数値は、小6では国語・算数、中3では国語・数学の平均値



1：当てはまる 2：どちらかといえば、当てはまる 3：どちらかといえば、当てはまらない 4：当てはまらない

▲小学校及び中学校ともに肯定的回答割合は、全国より低い。

(4) ICT機器の活用

- ⑥ 5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。

《「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」と回答した割合〔単位：％〕》

		小6			中3		
		ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上～ 月1回未満	ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上～ 月1回未満
R 6	岡山県	26.7	34.7	38.6	32.7	34.1	33.0
	全国	25.3	34.2	40.5	31.0	33.4	35.2

○小学校及び中学校ともに「ほぼ毎日」と回答した割合は、全国より高い。

今後の取組

※ 岡山市を除く市町村の公立小・中学校及び義務教育学校、県立中学校等を対象としている。

昨年度の岡山県の課題

- ▲ 1 小学校算数、中学校数学において、正答率40%以下の割合が全国値より高い。
- ▲ 2 生徒が主体的に家庭学習に取り組む仕掛けに基づく家庭学習時間の確保が必要である。
- ▲ 3 「ICT機器の活用」に関する質問項目で、「ほぼ毎日」と回答した割合が全国値より低い。
- ▲ 4 学校質問調査における質問項目の、校内研修等の値が全国値より低い。

現状

- 1 中学校数学は減少し（◎）、小学校算数は依然として全国値より高い（▲）。
- 2 授業時間以外での「学習1時間以上の割合」及び自己調整力に関わる質問項目において、全国値より低い（▲）。
- 3 全国値を上回っている（◎）。
- 4 全国値を上回っている（◎）。

今年度の県教委の取組

継続的な課題の解決に向け、ターゲットを明確にして取組を推進する。

【重点課題①】 小学校算数における正答率40%以下の割合

- 市町村教委及び授業改革推進チームと、調査分析の視点及び児童のつまづきを単元や学年を超えて把握する考え方を共有
- C B T（Computer Based Testing）方式による定着状況ウォームアップ及び学力定着状況確認テスト等を充実

【重点課題②】 生徒の家庭学習時間の確保と主体的に家庭学習に取り組む仕掛け

- 授業改革推進チームを核として資料等を作成し、持ち帰りを含めた児童生徒の1人1台端末の効果的な活用による家庭学習の推進を図る考え方等を提供

その他の課題

- ・ 「実践的な研修を行っていない」と自己評価している学校もあるため、校内研修等の充実に向けた継続的な支援の実施
- ・ 主体的・対話的で深い学びを実現し、児童生徒が生涯にわたって能動的に学び続けられる力を身に付けられるよう、岡山型PBL及び学びを委ねる場がある授業づくりの重要性についての考え方や好事例等を提供
- ・ 各学校及び市町村教委等の課題に対応できるような、ICT機器活用の伴走的支援の実施

各学校の取組

- 令和9年度から完全実施予定のC B T方式調査への対応も含め、定着状況ウォームアップ等の活用により、一層短いサイクルで学習内容の定着状況を確認するとともに、児童生徒に付けたい力を付けられる授業づくり及び実践的な校内研修等を充実していくことにより、当該学年で身に付けるべき学習内容を確実に定着できるようにする。
- 個々の児童生徒の実態に応じた家庭学習の推進に向け、持ち帰りを含めた1人1台端末の効果的な活用を検討するなど、主体的に学習に取り組むことができるようにする。
- 学習者用デジタル教科書を含めたICT機器の活用や岡山型PBLを推進し、児童生徒の主体的・対話的で深い学びを促進する。